

国語科全校授業・私的「成果と課題」

昨日の国語科の全校授業で今年度の全校授業も音楽、図工と続き4教科を終えました。残りは算数と道徳の2教科です。授業研究会を進める時に大切なことは「課題のリレー」。教科は違えど授業づくりや研究へのスタンスは同じです。昨日の舞台裏を振り返りながら自分なりに成果と課題を整理してみました。

昨日も12時を過ぎる頃に大学の児玉先生と助言者の滝野澤先生が到着し、昼食を一緒に頂きました。当初はお弁当を頂いていたのですが、やはり本校自慢の給食を食べて頂くのが一番と考え、今は給食を食べてもらっています。特に大学の先生方からは大好評で、写真に撮ったり食材に付いて話したりしながら自然に会話も弾みます。何気ない会話の中でも、昨日は児玉先生から今回の学習指導要領改訂に関わる話や、3年次の基本実習では「昭和の授業」を経験してほしいこと、授業者の平井先生の授業づくりの特徴など、普段でも聞く事のできない話も聞けるので大変参考になります。

昨日はOBの竹田先生や佐藤潤先生もおいでになり、他にも授業参観で訪れた学生の皆さんも多数いたので、授業会場は「超満員」でした。ここは研究部にお願いですが、ある程度参加者数が事前に分かっているので、参観のスペースを広く確保するような工夫を今後は行って欲しいと思います(※課題1)。また、抽出児童の記録をする先生方がずっと中腰なので、教室の授業では椅子を準備して落ち着いて記録をとっていただくような配慮も欲しいところです(※課題2)。

検討会は思い切って授業からスタートしたのは英断です(※成果1)。しかも前回の図工の時もそうですが、抽出児童の記録を上手に使い、子どもの学びに焦点化して話し合いを進める手法は納得できました(※成果2)。そのため、先生方の意見も子どもの学びから離れる場面が少なくなりました(※成果3)。その抽出児童の記録ですが、図工科に続き今回の国語科でもその時の子どもの学びの様子や子どもたちの微妙な変化がよく伝わるように記録されていたので、大変貴重な授業記録になっていることを実感しました(※成果4)。このままぜひ研究紀要に転記して欲しい内容です(※成果5)。

さて、昨日は助言者の滝野澤先生から共同研究や授業について具体的なお話をいただきました。全体研究については、「難しい」ということ、初めて読んだ人にも分かるようにというご指摘でした(※課題3)。また、新しい研究の方向を大学と一緒に探って欲しいこと(※課題4)、国語科の研究では4年目の重点を明確にすること(※課題5)、最後に授業者の平井先生に子どもたちに作文をしっかり書かせて検証すること(※課題6)などについて温かくお話していただきました。さらには来年度の宮城県の施策にも関わって小中連携にもさらに踏み込んで欲しい、という興味深いお話もいただきました。

大学の児玉先生からは説明文の教材としての価値と系統、学習指導要領改訂と今回の平井先生の授業の意味付け、さらには低学年で今回の授業を行った提案性について、協力者として詳しく説明していただきました。

そして何より一番の成果は平井先生と2年3組の子どもたちの授業での姿です。子どもたちがこれまで言葉としっかり向き合ってきたからこそ、自分の表現に活かそうとする授業に取り組むことができました。検討会が終わって会議室に戻った時、学年主任でもある孝徳先生が「3組の子どもたちは平井先生が大好きなんです。」と平井先生と子どもの関係を紹介してくれました。先生と子どもの確かな信頼関係があるからこそ、昨日のような2年生で提案性のある授業につながったものと思います。

平井先生、お疲れ様でした。

(文責：副校長 手代木)